



独立行政法人 国際協力機構

海外安全対策 ハンドブック

第5版



安全対策宣言

現在、世界は、貧困、格差、気候変動、紛争やテロ、感染症など、複合的な危機に直面し、不安定化しています。このような国際情勢において、国際協力の重要性はかつてないほどに高まっています。

JICAは、「信頼で世界をつなぐ」というビジョン実現のため協力現場に出向く活動を重視してまいります。国際協力に尽力されながら志半ばで失われた関係者の尊い命を決して忘れず、そのような痛ましい事態を二度と繰り返さないという強い決意のもと、安全対策について以下の取り組みを推進していくことを宣言します。

1. 人命最優先

国際協力事業関係者の人命・安全を最優先に事業を推進します。そのために不断の情報収集と適時適切な判断、対応を行います。

2. 最適の安全対策

現場に出向く活動を重視しつつ、平時・有事において、状況に最も適した安全対策を講じることができるよう、不断の改善を行います。

3. 当事者意識

国際協力事業関係者が安全対策を「自分事」として捉え、危機管理意識を高く持って安全対策を日々積み重ねることができるよう、安全意識の向上と具体的な行動変容を促します。

2022年10月6日
独立行政法人国際協力機構
理事長 田中 明彦

ハンドブックの作成目的・利用方法

JICAは、年間約2万人（専門家、調査団、海外協力隊等）を、海外へ派遣しています。

海外では、犯罪（殺人・強盗・誘拐等）、紛争、テロ、交通事故、自然災害（地震・台風・津波等）、感染症（新型コロナウイルス、エボラ出血熱、鳥インフルエンザ等）など様々なリスクがあり、危険を伴う事態も発生します。

近年は、イスラム過激派によるテロ事件が頻発し、JICA関係者が犠牲や被害に遭う悲惨な事件が世界各地で連続しています。

「リスクをゼロにすることは不可能」ですが、「リスクを最小化することは可能」です。そのためには、一人一人が危機意識を高めるだけでなく、行動に移す必要があります。

本ハンドブックは、JICA関係者が事件・事故に遭わないためのポイントを紹介するとともに、万が一、巻き込まれた場合の対応について説明しています。

一方、JICAのルールである安全対策措置・渡航措置及び行動規範・安全対策マニュアルについても説明しています。そのため、対外秘としていますので、取扱いには十分注意してください。

〈利用方法〉

- 本ハンドブックは、JICA関係者のセルフディフェンスに関する基本書です。
- 渡航前の安全対策研修の復習として読み返してください。
- 渡航直前の航空機など移動中に、熟読してください。
- 滞在中は常に手もとに置き、必要な際には参照してください。

渡航中の基本動作

●海外安全の原則

- ①自分の身は自分で守る
- ②無抵抗主義 犯人を追わない・取り返そうとしない
- ③目立たない・行動を予知されない・用心を怠らない

●有事（暴動・大規模災害など）が発生した際の対応

- ①まずは、自身の安全確保のために安全な場所へ移動する。
- ②同行者がいれば、同行者の援護・救護を行う。
- ③その後、速やかにJICA在外拠点へ連絡する。必ず、自ら安否を発信する。

連絡する際の報告内容

- 現在地
- 同行者の有無（もしあれば氏名）
- 怪我の状況
- 救助の要否
- 何が起こったのか（わかる範囲で）



**JICA関係者(海外協力隊含)の遵守事項** 6**1. 安全対策の心構え** 11**2. 平時の備えと緊急事態への対応** 14**3. 一般犯罪の対策** 18**4. 交通安全対策** 38**5. テロ・暴動(騒擾)・誘拐対策** 45**6. 健康管理** 61**7. 安全対策チェックリスト** 71**8. リンク集** 75

JICA関係者(海外協力隊含)の遵守事項

① JICA国別安全対策措置及び安全対策マニュアル

概要

(1) 国別安全対策措置(治安等)

- JICAは、事業を実施している国毎に、安全対策のルールとして**安全対策措置(渡航措置及び行動規範)**を定めています。
- JICA安全対策措置は、外務省の海外安全情報等も参考に、JICAと契約関係のある関係者(以下、「JICA関係者」)に対して、当該国への入国、滞在、活動、業務実施上に必要な安全対策のルール(外出、買い物等の制限、夜間外出の行動制限など)を、**JICA独自に定めている**ものです。
- 安全対策措置には、以下の2種類があります。
 - ア. 国別安全対策措置(治安等): 治安等に起因する安全対策措置
 - イ. 感染症対策措置: 感染症流行下における追加的な安全対策措置
 渡航に際しては、「国別安全対策措置(治安等)」と感染症対策措置(「世界共通の感染症対策措置」及び「国別感染症対策措置」)を比較し、より厳しい方の措置が適用されます。

(2) 国別安全対策マニュアル

- JICAは事業を実施している国毎に、当該国に滞在するJICA関係者がテロ、犯罪被害や事故に巻き込まれることがないように、**当該国の治安状況とJICAの安全対策に関して解説し、滞在、活動、業務実施上の参考**としていただくためのマニュアルを独自に作成しています。
- なお、本マニュアルには、在外拠点の安全対策担当者の連絡先等が含まれるため、原則、提供先はJICA関係者に限定しています。

用語の定義及び説明

- **渡航措置**: JICA関係者が渡航できる範囲、渡航の承認者、条件などを定めた措置
- **行動規範**: JICA関係者の渡航にあたり、移動手段、行動範囲、外出時間帯、同行者、警備の有無、通信手段、宿舎の利用等について規定したルール

入手方法

■JICAウェブサイト「JICAの国別安全対策情報」

(<https://www.jica.go.jp/about/safety/rule.html>)の「3. 入手方法:登録済の方」から、閲覧及びダウンロードが可能です。

- ログインID/パスワードは、**事業担当部、訓練所、在外拠点**から別途通知しますので、JICAウェブサイトよりログイン後、ご自身の派遣国および経由国の最新の安全対策措置をダウンロードしてください。なお、使用にあたっては、以下の留意点を必ずご確認ください。

留意事項

1. 「JICA安全対策措置」及び「安全対策マニュアル」は、各国・地域の治安状況の変化等により**随時改定されますので**、現地渡航前には、**再度**、渡航先国及び経由国の**最新版の情報入手**をお願いします(「JICA安全対策措置」及び「安全対策マニュアル」には、それぞれ更新日を記載しています)。
2. 現地渡航後は、赴任国の「JICA安全対策措置」及び「安全対策マニュアル」の最新情報を常に確認してください。
3. 安全管理の観点から、ログインID及びパスワード「JICA安全対策措置」及び「安全対策マニュアル」は関係者限りにしていただき、**情報管理の徹底**をお願いします。
4. 現地着任直後のオリエンテーションまたはブリーフィングにて、各JICA在外拠点の担当者より安全対策措置及び安全対策マニュアルについて説明があります。不明点があれば、各JICA在外拠点の担当者へご照会ください。

②渡航前ブリーフィング

脅威度の高い国を中心に、一部の対象国へ渡航されるJICA関係者に対し、原則として出発前に渡航前ブリーフィング(当該国の安全情報を個別に説明)を実施します。具体的なブリーフィング対象国は、リンク集に掲載しているJICAホームページをご確認ください。

※JICA本部への訪問が困難な場合に限り、資料送付や電話で説明いたします。

※ホームページのURLは最終ページに記載しておりますのでご参照ください。

③海外渡航管理システムへの登録



渡航前にて暴動(騒擾)等の安全対策上の問題や、自然災害等も含めて緊急事態が発生した場合に、速やかな安否確認・情報提供を可能にするため、JICA関係者には、現地の緊急連絡先や出発日時を含む渡航情報を海外渡航管理システムに登録するよう求めています。登録した渡航情報は、外務省「たびレジ」*にも連携されます。

*たびレジとは



「たびレジ」は、外務省が邦人向けに提供している海外旅行登録システムです。海外旅行や海外出張される方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録することにより、滞在先の最新の海外安全情報および緊急事態発生時の連絡メールや、いざという時の緊急連絡などを受け取れるサービスです。必ず登録してください。

海外に3ヶ月以上滞在する場合は、在外公館へ在留届を提出してください。
また離任時には、帰国届を忘れずに提出してください。

④海外旅行保険への加入(無事カエルパック)

※海外協力隊やJICAが直接派遣する専門家等については、「国際協力機構国際協力共済会」に必ず加入していただくため、本保険への加入検討は必要ありません。

技術協力コンサルタント、資金協力事業関係者等の方々は、事故、事件、病気等万が一に備えて、渡航前に必ず海外旅行保険へ加入してください。

JICAでは、法人契約による渡航を行う関係者(コンサルタント等)や資金協力事業関係者に、海外旅行保険(通称、無事カエルパック)を用意しています。緊急移送やご家族等の現地渡航サポート、365日24時間体制で日本語によるサービスを受けられるなどのメリットがあります。

※本保険のお申込みを希望する方は、出発前に各自で保険代理店へご連絡ください。

お気軽にご相談ください

「無事カエルパック」ご相談窓口

■TEL:03-6261-2783 ■FAX:03-5212-2130

(TEL受付時間:平日9:45~17:30 土・日・祝日・年末年始を除く)

■E-MAIL: hoken_jica14@ksa-world.co.jp

※ホームページのURLは最終ページに記載しておりますのでご参照ください。

⑤ JICA安全対策研修の受講

JICAは、安全対策研修の機会を提供しています。

詳しくは、JICA安全対策ホームページ

(<https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/training.html>)
をご参照ください。

JICA職員の受講については、機構内掲示板をご確認下さい。

■ セルフディフェンス研修(基礎Web版)

JICAの安全対策概要、一般犯罪対策、交通安全対策、テロ対策について、講義形式で学びます。

https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/20180223_01.html#web

■ セルフディフェンス研修(実技)

襲撃事案や暴動、刃物を用いた一般犯罪などに遭遇した際の対処方法など、実技を通して学びます。

https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/20180223_02.html

■ 国際協力事業におけるセキュリティ・リスク・マネジメント研修

テロ・誘拐などの事件、暴動などの危機が発生した際の、本邦における安全管理責任者としての基礎知識について学びます。

https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/20180223_03.html

⑥ 公用旅券の取扱い

公用旅券の管理を徹底、「絶対になくさない!」

紛失や盗難、汚損などが無いように以下の紛失事故防止6カ条を守ってください。

- 第1条 携行時は肌身離さず!(パスポートホルダー等を使用する)
- 第2条 他の貴重品と一緒にしない!
- 第3条 使用後は、施錠可能な金庫等で保管した事を確認!
- 第4条 不要時は携行しない!(コピーを携行)
- 第5条 家族の旅券にも気を配る!
- 第6条 旅行中は気が緩みがち!特に注意!



⑦任国外への渡航

任国外への渡航は、業務目的及び私的目的の別を問わず、JICAに対する申請と承認手続きが必要です。

業務渡航には、赴任時渡航、帰任時渡航、業務出張（任国内・任国外）、在外研修、本邦一時帰国（公費）があります。一般渡航には、私事目的旅行（任国内外）、本邦一時帰国（私費）があります。

安全対策措置上で渡航可となっている場合であっても、現地治安情勢により旅行申請後に渡航不可となる可能性があります（JICAは、発生した変更・払い戻しなどの費用を負担しません）。また、旅行に際しては、安全対策措置の確認に加え、緊急連絡先の登録や移動経路や宿泊先を明記するなど有事の際に確実にスムーズに安否確認が行えるようにしてください。

※渡航先国の安全対策マニュアルを読み、「すり」、「ひったくり」被害に遭わないように注意する

【重要】渡航国内で緊急事態が発生した場合、渡航者本人の安全に問題がない場合であっても、渡航者本人は速やかに当該国及び赴任国の在外拠点に対して自分から安否の報告をしてください。

※任国外への渡航手続きは、海外協力隊、専門家の制度に適用されます。海外協力隊の任国外旅行制度については、「JICAボランティア・ハンドブック」、専門家は「長期・短期専門家の手引き」をご参照ください。

渡航措置の種類と手続き

| | |
|----------|---------------------------|
| 渡航禁止 | 渡航不可 |
| 安全管理部長承認 | JICA本部安全管理部長の承認を得ることで渡航可 |
| 在外事務所長承認 | JICA在外事務所長の承認を得ることで渡航可 |
| 注意喚起 | 渡航安全確認調査手続は不要だが、治安上の留意が必要 |

用語の定義及び説明

- 〇〇国駐在者：派遣国内のJICA専門家、海外協力隊渡航時に適用される。
- 本邦及び第三国からの渡航者：JICA専門家、海外協力隊が派遣国以外の国に渡航又は経由地として立ち寄る際に適用される。

なお、「〇〇国駐在者」と「本邦及び第三国からの渡航者」の記載がない国・地域については、記載内容が「〇〇国駐在者」と「本邦及び第三国からの渡航者」に共通で適用されます。

1 安全対策の心構え

(1)セルフディフェンス

自ら考えて、自ら実践

海外では「**自分の身は自分で守る**」ことが基本です。常に以下の4つを意識し、自身や家族、仲間の安全確保の為に、「何をすべきで、何をしてはいけないか」を考え、**自ら**取り組むことが重要です。

安全対策知識の 習得と実践

「事件事故に遭わない為にはどうすればいいか」「万が一、遭遇した場合の対応は」について、知識を習得することを心掛け、いざという時に実践できるようにしてください。

最新情報の 入手と共有

自ら「治安情報・犯罪情報」に関心を持ち、最新情報を収集し、周囲と共有してください。

危機意識の継続

常に狙われているとの危機意識を持ち、慎重な行動を心掛けてください。慣れや過信は禁物です。初心を忘れないでください。

危険察知力、危機回避力 を身につける

「あれ、何だ?」「おかしい」と感じたら、危険と察知する事が大切です。「危ない」と感じたら、「その場」、「その人物」からすぐに離れてください。

緊急事態、事件・事故など何か起きた場合自身が安全であっても、所属先に対し、**自ら**安否状況、居場所などを報告してください。

(2) 無抵抗主義

重要なのは抵抗せずに財産(モノ)を渡して自分の命を守ること。

つまり、「**無抵抗主義**」です。

一般犯罪の多くは、財産を狙った犯罪です。抵抗せずに金銭や時計など「財産(モノ)」を渡せば、ほとんどの場合「命」は助かります。

※決して犯人を追わないこと、物を取り返そうとしないこと



※無抵抗主義の例外があることも知っておきましょう(テロリストによる無差別襲撃、精神障害者、薬物中毒者による犯行、怨恨、顔見知りによる犯行など)。その場合は、自分の命を最優先してその現場から急いで離れてください。



「積極的抵抗」と「消極的抵抗」

「積極的抵抗」とは、抵抗する意識を持って相手に立ち向かうことですが、「無抵抗主義」を理解していても、襲う側からは抵抗しているととらえられてしまう「消極的抵抗」があります。

金品目的で襲われた場合は

- 襲う側も反撃を恐れているので、手足を急に動かすなどの行動が反撃と思われて危害を加えられる可能性があります。指示に従い不用意な動作を取らないでください。
- 襲う側は、相手が指示に従わない、ぐずぐずして動かないなど、自身の意のままに動かないと感じたことで「抵抗している」と思い、危害を加えてしまうことがあります。出来るだけ相手に従う意思を示してください。
- その他、相手の顔や目をじっと見ることで反抗的と思われ、また顔を覚えられることを嫌うため、目を合わせないでください。
※ただし、テロ事案の場合は異なります(45ページ参照)。

(3) 海外安全のための三原則

「自分の身は自分で守る」ために、以下の**三原則**を必ず守り、常に注意を怠らないでください。

目立たない

- 外国人であれば、自然と目立つ存在であることを意識してください。
- 必要以上に華美な服装や装飾品、ブランド品、物などは持たない、若しくは着用しないでください。
- 目立つ車には乗らないでください。テロや誘拐の脅威がある国では会社や団体のロゴマークの付いている車はターゲットになる恐れがあります。
- 公共の場での政治・宗教・文化・習慣・生活環境などを批判するような言動を行わないでください。

行動を予知されない

- 行動のパターン化（通勤、買い物、娯楽、外食の際の移動ルートや時間などの固定化）を避けてください。
- 意図的に不規則な行動を取り、予測されないようにしてください。
- 自身の行動予定を、必要以上に漏らさないでください。

用心を怠らない

- 危機意識・注意力を維持することを怠らないでください。
- 慣れ、過信は禁物です。
- 「あれ、なんか変」「おかしい?」と危険を感じたら、回避行動を取ってください。
- 夜間・早朝の外出は、控えてください。

(4) 渡航先情報の確認

事前の情報収集が大切です。本ハンドブックのリンク集を参考に、JICA国別安全対策情報(6～7ページ参照)、外務省海外安全ホームページから、渡航先情報を必ず確認しておきましょう。

※ホームページのURLは最終ページに記載しておりますのでご参照ください。

2 平時の備えと緊急事態への対応

(1) 平時からの心構え

自然災害や政変、暴動、テロなどの緊急事態の多くは、突然起こります。日頃から緊急時の避難場所を確認していなかったため、被害に遭うことがあります。緊急事態が発生する前の平時から、しっかりと準備しておくことが大切です。

まずは、滞在先での過去に発生した災害や暴動などの情報を確認し、どのようなリスクがあるのか把握してください。

また、JICA在外拠点及び大使館等の緊急情報も常にチェックするとともに、以前に発生した災害や暴動など緊急時の状況を、現地の人から聞くことも重要です。

そして、もしもの事態が起こった場合、自分は何をすべきかを考え、必要なものは事前に備えておいてください。

緊急事態

| 事前に情報が掴めるもの | 事前に情報が掴めないもの |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・台風 ・ハリケーン ・豪雨 など | <ul style="list-style-type: none"> ・地震 ・山火事 ・噴火 ・航空機事故 ・列車事故 ・火事 ・ガス爆発 ・クーデター ・内乱 など |

※津波・洪水・土砂崩れ・暴動・テロなど、リスク要因から起こりうる事態をある程度予測することができます。



(2) 平時の備え

緊急連絡手段と連絡先の整備

平時から、緊急時の連絡手段、連絡先を手元に用意しておく必要があります（JICA在外拠点では、毎月月初に緊急連絡先リストを更新しています）。

- 普段から、有事の際の連絡系統や確認先などの情報を整理しておく。
- JICA在外拠点の担当者、カウンターパート、事業サイトを管轄する警察や治安機関、警備員、運転手、使用人などの連絡先を整理しておく。
- いざという時、直ぐに連絡できるよう、緊急連絡先リストを常に携行し、事務所や自宅の壁に掲示しておく。
- 親族や知人へ、自身以外の連絡先（家族、配属先など）を共有しておく。特に連絡先の変更があった際には注意する。
- 緊急時には、モバイル回線の速度が非常に遅くなる事が予想されるので、通信量の少ないスマートフォンアプリのトーク機能およびSNSなどの連絡手段を確認しておく。
- 治安悪化とともに長時間の停電が発生し、充電が切れて音信不通となってしまったケースが発生している。充電電池や手回し充電器を常備する。
- 緊急時には、どの連絡手段が使えるか予測できない為、電子メール、有線電話、携帯電話、無線機、衛星電話など複数用意しておく。携帯電話は、複数会社の回線を契約しておくことが望ましい。
- プリペイドの携帯電話は、緊急時にも確実に連絡できるように料金をチャージしておいてください。

平時に備えておく物品・留意事項

有事発生時には、自宅待機、避難場所への移動、国内外退避などの指示が出されます。これらに応じた事前の準備を平時からしっかり行ってください。

- 緊急時・事案発生時の行動要領をシミュレーションしておく。
- 集合ポイント、出発・出国ポイントが示されている場合は、事前に確認しておく。
- 緊急退避する際の複数の交通機関、避難ルート（陸路、空路、水路）をシミュレーションしておく。
- 車両の燃料は、可能な限り常に満タンにしておく。
- 緊急備蓄品（食料、水、電池、手回し充電器、懐中電灯、マッチ、蝋燭、医薬品）を用意しておく。（食料、飲料水は、家族分も含めて、**3日間分以上**の準備を推奨）

(3) 緊急事態への対応

緊急事態(暴動、大規模災害など)が発生したら

緊急事態発生時には、以下の対応をお願いします。

- まずは、安全を確保される場所まで避難した後、速やかにJICA在外拠点の関係者へ状況、現在位置、救助の要否など、一報を入れてください。
- JICA在外拠点は大使館、JICA本部と連絡を取りつつ、JICA関係者に対する緊急事態への対応方針(特に国内避難、国外退避に関する事項)を決定しますので、JICA在外拠点からの連絡・指示を待ってください。
- 随時、JICA在外拠点が緊急連絡網を通じて連絡を行います。**携帯電話は常にオン**の状態とし、通信網を必ず確保してください。
- 携帯電話は在宅時及び就寝時にも応答できるよう肌身離さず、若しくは手の届く範囲に置くようにしましょう。また、就寝時には、十分な充電を確保し、すぐに呼鈴に気づくような音量に設定してください。

自助・共助・公助の三助

災害などの緊急事態発生時、まずは、自助「自らの命は自分で守る」ことが基本です。次に、共助「周囲の人、コミュニティで助け合い」、最後に公助「公的機関による救援」となります。しかし、公助の期待ができない国や地域もありますので、まずは、自助・共助で対応しましょう。



国内避難・国外退避等への対応

国内外への退避難は、渡航者の派遣の根拠となる契約に基づき、JICAの指示として行います。

■国内避難

地域限定的な緊急事態については、当該地域に居住する関係者が、国内における他の安全な地域に一時的に避難することがあります。また、海外への出国に備え、予備的に首都など国際空港のある都市に避難を行うことがあります。

- 状況を踏まえてJICA在外拠点がJICA本部と協議の上、国内退避を決定します。その後、JICAから連絡を入れますので、必ず安全な場所で待機して連絡を待ってください。
- 避難先への移動手段（陸路もしくは空路）については、JICA在外拠点が指示します。
- 避難先の滞在先はJICA在外拠点が手配します。
- 可能であればカウンターパートに避難する旨、口頭でお伝え下さい。
- 避難解除後、任地への赴任移動手段については、JICA在外拠点が手配します。
- 避難期間が長期化すると判断される場合は、国外退避へ変更する場合があります。長期の不在を想定して、留守宅の整理をしてください。

■国外退避

深刻な緊急事態の際は、安全を優先して国外への出国を指示しますので、慌てずに指示にしたがって行動してください。

- JICA在外拠点と連絡を取りつつ、指定された集合場所に移動してください。その際、最低限必要なもの（パスポート、現金、携帯電話、その他貴重品等）を持参してください。
- 集合場所へは、JICA在外拠点の公用車あるいはJICA在外拠点が手配する車両等で移動しますが、状況によっては各人が自力で目的地に集合するようお願いすることがあります。いずれの場合も、移動中の安全が確保されるよう、JICA在外拠点と緊密に連絡を取り合いつつ、移動することが重要です。
- JICA在外拠点が移動せず待機するよう指示した場合は、必ずその指示に従ってください。

3 一般犯罪の対策

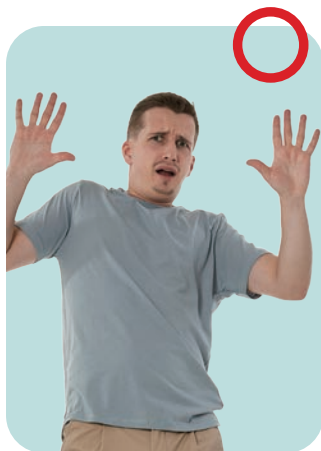
(1) 平時からの心構え

世界では様々な犯罪が発生しています。自分が滞在している国や地域では、どのような犯罪が「いつ」「どこで」「どのように」発生しているか情報を入手し、犯罪に遭わない方策や、万が一、犯罪に遭遇した際の対処方法等を常に考えてください。

一般犯罪の多くは、金品を狙ったものです。また、注意していれば、被害を未然に防げることが多く、常に安全三原則の「**目立たない**」「**行動を予知されない**」「**用心を怠らない**」を忘れずに行動してください。

小さな犯罪を放置すると、JICA関係者がターゲットにされ狙われやすくなります。また、小さな犯罪が続いたその先に大きな事件・事故が発生する経験則があります。ひったくり、スリ、置き引きなどに狙われない予防と用心が肝心です。

万が一、犯罪に遭遇しても対応を間違えなければ被害を最小限に抑え、怪我を負ったり、命を落とすことなく無事にやり過すことが出来る場合が多いため、「**無抵抗主義**(12ページ参照)」を必ず守ってください。



ケーススタディ①

『強盗』

強盗は、日中・夜間を問わず多くは路上で発生します。犯人は刃物や銃器で武装する場合があります。

抵抗は、しないで!!

被害内容

- 〈事例①〉 夜間、ホテルから外出し歩行中、現地人の集団とすれ違った際、突然羽交い絞めにされ、殴る蹴る等の暴行を受け、財布を強奪された。
- 〈事例②〉 現地の人が多く利用するレストランで友人と昼食中、客を装って銃を所持した強盗数名が店内に押し入り、レジと客から現金等を奪い逃走した。
- 〈事例③〉 現地で知り合った人を自室に招き入れ、飲酒していたところ、酒に薬を混ぜられて眠らされて、金品を奪われた。

対策

- JICA在外拠点が作成している安全対策マニュアルに記載の危険地域及び犯罪の多い時間帯を把握して、危険は極力回避する。
- 特に日没後の単独行動や、昼間でも人気の少ない場所での単独行動は避ける。早朝・深夜の行動が厳しく抑制されている国があるので、確認すること。
- 日頃から、貴重品や大金などは持ち歩かない。
- 財布、鍵、携帯電話などは、カバン等にまとめず分散して持つ。
- 強盗に直ぐに渡せる「見せ金」「見せ財布」などを用意しておく。
- 強盗に遭遇してしまったら、「無抵抗」の姿勢を示す。
- レストラン、銀行、ショッピング先などでは、なるべく入口やレジから遠く、出入口と店内全体が見通せる位置にいるようにする。
- いざという時に逃げられるように、非常口を確認しておく。



強盗は、人気のない場所だけではありません。

日中、人通りの多い道を歩いている時に、二人乗りバイクのけん銃強盗に遭遇した事件があります。また、空港では、到着時に自分の名前が書かれたボードを持った人物がいたので、出迎えのドライバーだと思い車に乗り込んだものの、人気のない場所に連れて行かれ、刃物や銃で脅されて荷物や財布、パスポート等を奪われたという事件が発生しています。事前に、出迎え者本人の確認方法を決めておき、出迎え者の名前や写真を事前に入手するよう、注意を怠らないようにしましょう。

ケーススタディ②

『スリ』

スリは、市場の人混みや混雑したバス・電車の中などで近づき、バッグのファスナーを開けたり、切り裂いたりして中の金品を盗みます。



スリは神出鬼没!

被害内容

- 〈事例①〉上着を椅子の背もたれに掛けて、空港のカフェで休息していた。上着を着てカフェを出ようとしたら内ポケットから財布がなくなっていた。
- 〈事例②〉前を歩いている女性がコインを数枚落としたので拾って渡してあげた。その後、ズボンのポケットから財布が無くなっていることに気が付いた。
- 〈事例③〉バス停でバスを待ちながらスマートフォンを操作していた。バスが来たのでスマートフォンをリュックに入れ背負って乗車した。バスを降りたら、ファスナーが開きスマートフォンがなくなっていた。

※イタリアはスリ天国!!!

対 策

- スリはスマートフォンや財布をどこにしまったのか見ているため、人前で不用意に取り出さない。
- 自分の荷物から目を離さない。
- 人混みや電車やバスの中では、特に注意する。
- 貴重品は荷物の奥にしまい、乗り物に乗る時はバックを身体の前に抱える。
- ズボンの後ろポケットには財布やスマートフォンを入れない。

ケーススタディ③

『ひったくり』

バイクが後ろから近づき、バッグや手持ちのスマートフォンをひったくるケースが増加しています。



バッグのタスキ掛けは危険!!

被害内容

- 〈事例①〉歩いて移動中、背後から2人乗りバイクが接近し、斜め掛けバッグをひったくられた。その際転倒し、約30m引きずられて全身に怪我を負った。
- 〈事例②〉バス停でスマートフォンを操作しながらバスを待っていたら、発車した別のバスの窓から男が手を伸ばしてスマートフォンを奪った。バスはそのまま走行して行ってしまった。
- 〈事例③〉タクシーに乗車中、開いていた窓から手を差し込まれて、操作していたスマートフォンをひったくられた。

対策

- 常に周囲を注意し、警戒を怠らない。
- 注意が散漫になるので、スマートフォンや音楽プレーヤー等を使いながら歩かない。
- 日頃から、貴重品や大金などは持ち歩かない。
- 徒歩での移動の場合、後ろからひったくりのターゲットにされないようにバッグは前に抱えて持つ。
- バッグのタスキ掛けは、引きずられて怪我をする可能性が高く危険なためタスキ掛けにせず、道路と反対側の手に持つ。
- 道路が二車線以上ある場合は、対向車線側の歩道を通る。
- 車両移動中はドアを施錠し、窓を閉める。

ケーススタディ④

『置き引き』

レストランで、バッグをイスに掛けて食事をしていたらなくなった。ジムで荷物を置いて席を離れ、戻ったらなくなっていた、など、荷物から目を離した隙に盗まれたという被害が多く発生しています。



犯人は一瞬のスキを狙っている!

被害内容

- 〈事例①〉 空港で、搭乗時間をメモ帳に記入しようとバッグをフロアーに置いてフライトボードをチェックしている際に、バッグがなくなっていた。
- 〈事例②〉 友人と屋外グラウンドでエクササイズをしていた。バッグを目の届く場所に置いていたつもりだったが、いつの間にか無くなっていた。

対策

- バッグなど自分の荷物からは目を離さない。
- バッグを床などに置く場合、「足に挟む」または「足に当たる様に床に置く」など身体から離さないようにする。
- 着席する場合は、荷物を「膝の上」に置く。
- レストランやカフェなどのテーブルに財布やスマートフォンを置かない。
- 荷物を預けるときは、信頼できる場所に預ける。



どんな時も荷物から手を離さない。

置き引き以外にも、観光客らしき男性に地図を見せられて道を聞かれたので、説明しようと持っていた荷物から手を放している際に、荷物を持ち去られた被害が発生しています。見知らぬ人から声を掛けられても立ち止まらない、荷物は常に身体から離さないなどの注意をしてください。

ケーススタディ⑤

『スキミング』

どこかのタイミングでカード情報と暗証番号が盗まれ、スキミング犯に預金を引き出されたり、買い物をされたりします。

**暗証番号を盗まれない!****被害内容**

スーパーのATMで現金を引き出した日の夜、残高照会をしたところ、身に覚えのない金額が同日のうちに引き出されていた。すぐに銀行に連絡し、カード引き落としをブロックした。

対策

- 暗証番号は盗まれないように気を付ける（カード情報には暗証番号は含まれていないため、カード情報だけでは取引はできない）。
- ATMに読取り装置や隠しカメラを設置されている場合がある。街角のATMの利用を避けて、銀行設置のATMを利用する。
- 暗証番号は、手で覆い隠し入力する。
- 暗証番号の入力は1回のみとする。2回以上要求された場合は、取引を打ち切る。

ケーススタディ⑥

『麻薬使用・所持』

「麻薬とは知らなかった」「自分の荷物ではない」は、通用しません。なぜなら、麻薬の運び屋も同じことを言います。



麻薬の使用や所持は絶対ダメ!

被害内容

〈事例①〉 空港でチェックインのために並んでいたら、大量の荷物を持った女性が「荷物が多すぎて多額の費用が掛かると言われた。着いたら空港で引き取るので、このバックを1つあなたの荷物として、一緒に預けて欲しい」と困った様子でお願いされた。自分の荷物が少なかったので、一緒にチェックイン時に預けたが、到着した税関で中を開けられ麻薬所持で逮捕されてしまった。

〈事例②〉 現地友人の車に友人の知人と共に乗車中、警察の検問にあった。同乗者のマリファナ所持が発覚して逮捕され、自身も拘留された。逮捕された同乗者は、6ヶ月間の拘留後、国外強制退去の処分を受けた。

対 策

- 日本では、マリファナ所持の最高刑は7年の懲役だが、国によっては死刑が科せられる。いかなる場面でも、麻薬は絶対に使用・所持しない。
- 相手が困っていても、見知らぬ人の荷物は絶対に預からない。
- 知人から頼まれた物でも、丁重に断る。
- 自分の荷物以外は持たない。



麻薬の使用

大麻の使用が合法とされている国でも使用履歴があれば、日本や第三国の国内法で罰せられることとなります。絶対に大麻を使用・所持他意図しない保持に巻き込まれないよう注意してください。

ケーススタディ⑦

『車上狙い』

**貴重品は車内に置かない!****被害内容**

車で外出時、ドライバーが車内にいるから安心と思い、パソコンや貴重品を車内に置いたまま、ビル内へ用事を済ませに行った。しかし、ドライバーがトイレで車を離れた数分の間にドアロックをこじ開けられ、パソコンや貴重品がすべて盗まれた。

対 策

- 車から離れる時は、貴重品を車内に残さず持ち出す。
- ドライバーが居るからと安心せず、ドライバーもトイレや買い物で車を離れることがあると考え、荷物は自分で管理する。
- 警備員が常駐している駐車場を利用する。
- 建物の出入り口付近など、周囲の監視が期待できる場所に駐車する。
- 車両にセキュリティアラームを設置する。

ケーススタディ⑧

『車上襲撃』



停車時は周囲に警戒を!

被害内容

〈事例①〉車で帰宅時、自宅前のゲートが開くのを待っていたら、銃を所持した複数の男に囲まれ車を強奪された。

〈事例②〉赤信号で停車したら、後続の車両から降車してきた2人組の男に銃を向けられ、引きずりだされそうになった。抵抗せずにシートベルトを外そうと手を動かしたら、腕に銃撃を受けて車ごと連れ去られた。後に被害者は解放されたが車は盗まれた。

対 策

- 日頃から目立たないようにし、行動を予知されない。
- 車に乗る際は、周囲に不審な人物、車両(運転手など)がいないか離れた場所から確認する。
- ゲート前など停車しなければいけない場所は、不審者が居ないかを確認する。
- 赤信号や渋滞の末尾にさしかかったら、速度を調整して停車しないよう心掛ける。
- 走行中も後ろをつけられていないか確認し、不審車両を発見した場合は近付いたり停車せず、警察や安全な場所へ避難する。
- 襲撃のターゲットにならないために、同じ場所に長く留まらない。
- 万が一強盗に遭遇してしまったら、「無抵抗」の姿勢を示す。また、シートベルトを外す場合は、急な動きはせず、先に指差してシートベルトを外すことを伝える。

(2) 滞在先での安全対策

住居・事務所侵入を防ぐ3つの防衛線 (ハード面とソフト面)

住居内及び事務所内への侵入を防ぐには、3つの防衛線が重要となります。塀を高くし警備員を雇用するなどハード面の対策が必要ですが、せっかく鍵をつけてハード面で対策を徹底しても、ソフト面での鍵をかけ忘れてしまえば、せっかくの対策も機能しません。日頃から「自身の心がけ」というソフト面での対策の重要性を認識しましょう。

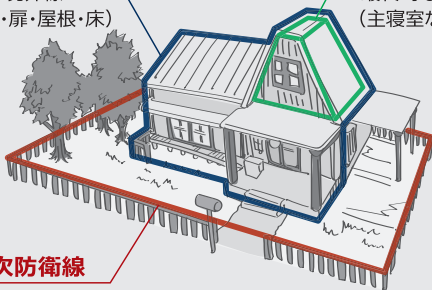
三つの防衛線でセキュリティを構築

第二次防衛線

建物の境界線
(壁・窓・扉・屋根・床)

第三次防衛線

最終的な防衛エリア
(主寝室など)



第一次防衛線

所有者敷地の境界線(フェンス、生け垣など)



集合住宅においても、基本的に防衛線の考え方は住居と同様です。

- 第一次防衛線: 所有者敷地の境界線(フェンス、生け垣など)
- 第二次防衛線: 建物の境界線(壁・窓・扉・屋根・床)
- 第三次防衛線: 最終的な防衛エリア(主寝室など)

住居・事務所防犯の組み立て方

■第一次防衛線

物理的な境界…乗り越えが困難なフェンスやレーザーブレードワイヤーなど

心理的な境界…乗り越えは出来るが、明確に境界が分かり、立ち入り難い
監視カメラ、「立ち入り禁止」の看板や表示、警備員の
巡回など

- 周囲と敷地の境界線を明確にすることが重要。
- 生け垣なども有効だが、可能であれば、簡単に乗り越えることが出来ない高さや忍び返し、レーザーブレードワイヤーの設置が望ましい。
- 外から敷地内の様子が見えないフェンスが望ましいが、第三者による自然な監視が期待できる場合に金網フェンスも有効である。
- 敷地内は、監視が保てるように防犯灯などを設置する。



- ・周囲からの監視が期待できるフェンス
- ・乗り越えを困難にするレーザーブレードワイヤー

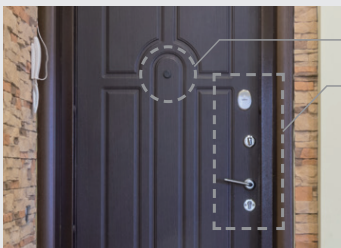


- ・周囲から敷地内が見えないフェンス
- ・警備員による車両ゲートの開閉

住居・事務所防犯の組み立て方

■第二次防衛線

- 扉には、錠を2つ以上設置する。
- ドアスコープを設置する。扉を開ける前は、必ずドアスコープで外を確認する。
- ドアチェーンを付ける。来訪者への対応時には、ドアチェーンを掛けたまま対応する。
- カーテンは薄手と厚手を使い分け、外から室内が見えないように工夫する。
- 最低1か所の電灯は、常に夜間も点灯して不在をカモフラージュする。



第二次防衛線の扉



第二次防衛線の窓

バーグラバーで強固な侵入対策。必ず格子状にする。

※火災などの際には逃げ道がなくならないように内側からの脱出口設置も必要

■第三次防衛線

- 寝室の扉には、内側から掛けられる錠を2つ以上設置する。
- 外部へ連絡できる通信手段を常に確保し、壁に緊急連絡先を貼っておく。
- 就寝時及び外出時には、寝室ドア・窓に施錠する。

ケーススタディ⑨

『ホテルでの窃盗』ホテルでも注意!!

被害内容

ホテルに滞在中、ドアがノックされ「メンテナンス」と言われて、作業員風の男を部屋の中に入れ点検が行われた。その後、カードキーを持って外出し、外出先から戻ったらドアが開かないためフロントで確認したところ、カードキーは偽物だった。部屋に来た男はメンテナンスを装った泥棒で、カードキーを偽物とすり替え、外出中の部屋に忍び込んで荷物を盗み出していた。

対策

- メンテナンスやサービスが部屋に来てても、思い当たることがなければ、安易に信用せずフロントに確認する。
- 電話がかかってきても、名前を告げない。
- 強盗がサービスを装って扉を開けさせる事例があるため、ドアを開ける際もドアスコープで確認し、ドアチェーンを掛けたまま対応する。
- 外出時は荷物を整理し、スーツケースには鍵を掛けてホテルの備品に括り付けるなど、容易に持って行かれないように対策を取る。
- パスポートは、ストラップ付ケースに入れて首から下げ、衣類の内側に収納して外出する。
- 現金は、ポケット・スーツケース・備付の金庫などに分散して保管する。



ホテルの安全対策注意事項

- 安全な地域にある、警備体制の整備されたホテルを選んで滞在してください。
- 窓からの侵入が容易な地上階(1階～2階)の部屋は避け、また、火事の際に消防救助機材が届かない高層階(8階以上)の部屋は避けてください。
- チェックイン時も、荷物は目の届く場所におくようにしてください。
- フロントに併設のカフェまたはレストランは、不特定の人が入り出るパブリックな場所であり、犯罪やテロの標的となる可能性があるため、長時間とどまらないでください。
- 避難経路を必ず確認してください。また、一度歩いて確認することをお勧めします。

『住居強盗』



扉を開ける前に確認を!!

被害内容

集合住宅に滞在中、玄関扉の外から自分を呼ぶような声とセキュリティという声が聞こえてきた。警備員が自分に何かを知らせに来たと思って扉を開けたところ、ナイフを持った2人組の強盗が立っており、そのまま部屋に押し入られて、金品を強奪された。

対策

- 扉は安易に開放せず、まずはドアスコープで外の安全を確認し、不審な場合は扉を開けずに警備員や警備会社へ通報する。
- 扉を開けて確認する場合は、必ずドアチェーンをかけたまま用心深く開ける。
- 押し込み強盗や誘拐目的で見張られている場合があるため、自宅に帰ってきた際は、不審な人物が居ないか周囲を確認する。

ケーススタディ①

『忍び込み』



家の戸締りをしっかり、確実に!

被害内容

夜間、寝室で就寝中、物音と人の気配で目が覚めたら、枕元に知らない人物が立っていた。気付かれぬように寝たふりをしていたら、その人物は室内を物色して金品を盗んで家から出て行った。被害に遭った住居は、集合住宅の2階で、敷地外周はフェンスに囲まれ、窓には鉄格子が設置されていたが、油断してベランダの扉を開放していた。

対 策

- 賊が容易に侵入できないよう、就寝中は**必ず寝室ドアの内側から施錠**する。
- 万が一、賊と鉢合わせになった際、居直り強盗に変化することがあるため、就寝中に他の部屋で物音がしても安易に出ていかず、寝室に立て籠もり外部へ通報する。
- 集合住宅の上層階でも外部からの侵入は容易であることを認識し、外出時のみならず、在宅就寝中もベランダや窓の鍵を施錠する。



寝室は最後の砦

寝室は、第三次防衛線(最終避難室)として扉・窓を強固にしておきましょう。また、立て籠もって救助を待つ場合に備え、飲料水、食料、外部との連絡手段(携帯電話など)、緊急連絡網、サイレン付きメガホン、ブザーなどを備え付けておきましょう。

ケーススタディ⑫

『オフィスでの窃盗』



犯罪の機会を作らない!

被害内容

配属先の執務デスクに財布とスマートフォンを置いたまま席を離れた。席に戻ったらどちらも無くなっていた。オフィスには複数の同僚が勤務し、同時に外部からの訪問者がいなかったが、犯人を見つけることは出来なかった。

対 策

- 普段使用するデスクであっても席を離れる時、貴重品等は鍵のかかる引き出し等に収納する。
- 外部の人だけでなく、内部の同僚、スタッフなどに対しても高価な物は出来るだけ見せないようにする。
- 席を離れる場合は、周囲の同僚やスタッフに声をかけ、気にかけてもらう。



犯罪機会論

犯罪機会論とは、犯罪発生の原因をその環境（現場）から除去することで、犯罪者に犯罪実行の機会を与えないようにして、犯罪を未然に防止しようとする考え方です。

犯罪は、①「犯罪を犯すことに躊躇しない者の存在」、②「盗るに値する物の存在」、③「抑止力のある監視者の不在」の3つが同じ時間、同じ場所に揃って発生すると考えられます。この3つの条件のうち、何れかを排除することで、被害を防ぐことが出来ると考えられます。

(3) 性犯罪の実態と対策

性暴力 (sexual violence /sexual assault) とは本人が望まない、合意していない性的な行為すべてを示します。国連は性暴力を「身体の統合性と性的自己決定権を侵害するもの」と定義。日本でも、2023年7月に性犯罪関係の刑法改正が施行され、「自由な意思決定が困難な状態で行われた性的行為」が性犯罪の本質的な要素であることがより明確になりました。性暴力被害は性別・年齢に関わらず生じ得ますが、とりわけ男性と女性の間で不平等な力関係や性差別が大きい場合、ジェンダーに基づく暴力 (Gender-based Violence: GBV) が発生しやすくなります。また、紛争下において性暴力が組織的、構造的に頻発するリスクに備えておく必要があります。

海外で性犯罪の被害に遭うケースは少なくありません。強制的性交の性犯罪は金品を狙った強盗と違い、「無抵抗」であったからといって身体的被害を免れることは難しく、その場を逃れる方法を探さなくてはなりません。しかし、抵抗することで、命の危険にさらされることもあります。まずは、ターゲットにならない為の行動や対策をしっかり行ってください。また、ストーカーなどの予兆があったら早めにJICA在外拠点、同僚、上司などへ相談しましょう。

性犯罪の種類

- 不同意性交
- 不同意わいせつ
- 痴漢
- ストーカー
- セクハラ

被害が起こりやすい状況

「油断 (連絡先を教える、部屋に異性を入れるなど)」や「住居の安全対策 (施錠など) 不足」により、被害に遭うケースが目立ちます。同性でも被害に遭う事例もあるため、女性だけでなく男性も注意する必要があります。



犯人目線でターゲットにされやすい行動

性犯罪の中でも身体的被害に遭うパターンとして、偶然近くにおいて犯人の目に付いたのでターゲットにされたという事例も多くあります。特に以下の5タイプはターゲットにされやすいといわれています。

- 単独行動している
周りに気付かれずに犯行が行える。
- 声掛けすると反応があった
声を掛けて立ち止まって会話に応じる人はスキがあって狙いやすい。
- 背後を警戒しない
音楽を聴きながら、スマートフォンを操作など、無防備。
- ハイヒールやスカート姿
ハイヒール、スカートなど動きにくく走りにくい。
- 徒歩で行動する(夜道を歩く)
自宅まで尾行してチャンスを探ることができる。

ケーススタディ⑬

『不同意わいせつ・不同意性交』



「自分は大丈夫」と思わないで!!

被害内容

- 〈事例①〉日頃から、親切にいろいろ教えてくれる隣人男性からドライブに誘われて一緒に出かけた。ドライブ途中、山林の人気のない場所に連れて行かれて性行為を強要されたが、運よく人が通りかかり、助けを求めたため無事だった。
- 〈事例②〉配属先の同僚達とパーティーへ参加して以降、男性の同僚から求愛のようなメールが届くようになった。人間関係を壊したくないため曖昧に対応していたが、オフィスで2人だけになった時、突然襲われた。
- 〈事例③〉買い物へ出かけようとホテルを出たら、宿泊先のホテルの従業員と名乗る男性から街を案内してあげると声を掛けられ一緒に街を散策した。途中差し出されたジュースを飲んで意識を失い、気がつくと車に乗せられるところだった。

対 策

- 普段から目立つ服装はしない。
- 相手に誤解されるような曖昧な態度や行動を取らない。
- 異性と二人きりになる空間を作らない。
- 現地のジェンダー規範や性的行動に対する考え方を認識して行動すること。
- 不快・不安を感じる言動に接した時には、一人で抱えず早めに周囲に相談する。



性的被害から身を守る10カ条

- ① 周囲に溶け込んだ服装を心がける。
- ② 見知らぬ者や顔見知り程度の者に話しかけられても毅然とした態度で接し、相手に誤解されるような曖昧な態度や表情（**愛想笑い、過度の聞き上手**）をしない。相手が強引な態度に出た場合は、周囲に助けを求める、また、事務所等へ連絡をする。
- ③ ストーカーなどの被害に発展するリスクがあり**瞬く間に拡散するため**、アドレス、電話番号、住所などの個人情報をもやみに教えない。繰り返しメールや電話があった場合は不用意に返答しない。続くようであれば、メールアドレス・電話番号を変更する。
- ④ 部屋の鍵は必ず施錠し、訪問者があった場合は必ず相手を確認して、安全を確かめドアを開ける（場合によっては、ドア越しで対応する）。
- ⑤ 窓にはカーテン（外部から室内の様子が覗える薄手のものは避ける）をつける。寝室は最後の砦として、施錠を確実にする。通信機器（携帯電話等）は忘れず枕元に置く。
- ⑥ 居室、寝室はプライベートな場所のため、大家の家族であっても寝室には入れない。
- ⑦ 外出時危険と感じる場所があれば回避する。やむを得ず付近を通行する場合は、防犯ブザーを携行し、速やかに通り過ぎる。
- ⑧ 毎日同じ店を利用したり、同じ経路を歩いたりするなど**行動パターンを同一にしない**。また、日没後や夜間の不要不急の外出は避ける（**夜間帯は犯罪被害遭遇率が高い**）。
- ⑨ 店の人と挨拶を交わすなどし、通勤、帰宅路に助けを求められる場所（店、民家など）を確保する。
- ⑩ 特にイスラム圏においては戒律が厳しく、同国人に対しての性的犯罪は禁忌されることから外国人がターゲットになることが多いため、任国の習慣にあった行動をとる。

4 交通安全対策

(1) 交通事故防止策

途上国の交通事情・道路状況

- 途上国の多くは、日本と交通環境が大きく異なり、特に交通マナーの悪さ、ルールの不徹底、道路整備の遅れ、車両整備不足などが目立ちます。車に乗る際、自分はルールを守っているから「絶対安全」ということはありません。海外の交通環境は日本とは異なることを認識しましょう。
- 海外で致命傷を生じる交通事故のほとんどが、スピードの出し過ぎが原因となっています。運転手に対する指導を含め、自らの安全を自らが守る姿勢が重要です。

途上国での交通事故のパターン

| | |
|------------------------|---|
| スピードの出し過ぎによる事故 | 対向車線に飛び出す、スピード超過、障害を避けて反対車線を走行する等 |
| 整備不良車両による事故に巻き込まれるケース | 突然のエンストによる急停車、タイヤが外れる、ライト切れなどの運転技術、積み荷の落下、ブレーキ故障等 |
| 運転技術が未熟な車による事故の巻き添えケース | 無理な追い越し、急な車線変更、割り込み、前方不注意、不適切な夜間のハイビーム、ウイカーの出し忘れ・消し忘れ、飲酒運転、過重荷物搭載による横転等 |
| コンディションの悪い道路での事故 | 急ブレーキ、急ハンドル、タイヤ・ハンドルを取られてコントロールを失う、悪路でパンク等 |



歩行中の交通事故も多く発生しています。 歩行中の交通事故対策もしっかり行ってください。

- 左右の安全を確実に確認する。
- 歩道がある場合は歩道を歩く。車道は歩かない。
- 走行する車両に対面する側を歩く。
- 交差点の横断歩道を注意しながら渡る。
- 横断時は、ドライバーの眼を見ながらゆっくり同じ歩調で歩く（アイコンタクトは重要）。
- 渋滞場所では、車の陰から出て来るバイクや自転車に気を付ける。

同乗中のセルフディフェンス

交通事情・道路事情は国や地域によって異なりますが、安全運転は世界共通です。海外においては雇用等ドライバーによる運転が多く、その場合でも自身の安全は日々守るとの意識の下、ドライバーをつぶさに観察・指導することが大切です（同乗者責任）。

シートベルトの着用

シートベルトは衝突時等の命綱です。乗車時に全ての同乗者は必ずシートベルトを着用しましょう。手配した車にシートベルトが付いてないことが判明した場合は、シートベルトが付いている車へ換えるよう申し入れてください。

事件事例：ハンドル操作を誤り電柱に衝突したところ、同乗中のシートベルト未装着者が頭部及び顔面を打ち付け負傷した。

眠らない

- 眠ってしまうと、衝突の瞬間に適切に身を守ることができません。

運転手の指導・管理

- 交通事故の原因は荒い運転、速度超過の未整備、気の緩み、うっかりミス、車間距離をとらない等が挙げられます。安全運転・運行管理を徹底させ、集中力を堅持し、緊張感を持続して運転させることが大切です。
- 運転手の行動や運転操縦、安全運転状況、居眠りしそうでないかなどを確認しましょう。同乗中はパソコンの操作や書類のチェックなどはせず、助手席の後ろに座って安全運転のアドバイスを心がけてください。
- スピード超過に対しては、死亡（重傷）事故に直結するので毅然として指導しましょう。
- 大音量のラジオや音楽は、周囲の音が聞こえず注意が散漫になるので、音量を下げさせましょう。

薄暮時以降の運転と同乗は避ける

- 夕暮れを過ぎると疲れが出るうえ帰宅を急ぐため、運転が乱暴になる傾向があります。また、暗くなると視界が悪くなるため、薄暮時前に自宅へ到着するように時間を設定しましょう。
- 無理な追い越しのため、車間距離を取らずに突進してくる車を見つけたら、スピードを落として脇に寄るなどし、「もらい事故」を防ぎましょう。

長距離運転

- 長時間移動の地方出張時は、余裕を持って移動時間の設定を行ってください。
- 先を急いでしまうとスピードを超過したり、無理な追越しをしがちです。目的地までの安全運転を、運転手と共に心がけてください。
- 1時間に1回、または100kmで15分間のペースで安全な場所で休憩を取るなど、運転手への気遣いも大切です。

自身で運転する場合の注意事項

安全運転と車両点検

- 交通量が少ない場所では、スピードを出しがちです。周りの車の動きにも注意して安全運転を心掛けてください。
- 事故や車両故障で立ち往生した場合、直ぐに助けが来る可能性は低いので、普段からしっかりと車両点検を行ってください。
- レンタカーを借りる場合も、乗る前に車のコンディションを必ず確認しましょう。

歩行者注意

途上国では、子供だけでなく、大人も交通事情を理解していないことが多いので、横断する歩行者の動きだけでなく、歩道にいる人の動きにも注意が必要です。





日常の車両整備

整備不良の車でエアコンの効きが悪い場合には、窓を開けて走行することになり、空いている窓から物を取られるなど犯罪被害に遭ってしまうことがあります。また、シートベルトが壊れていると事故の際に大怪我につながる恐れがあります。さらに、整備不良の車両を使って郊外へ遠出すると、途上国の地方の町では、先進国の様に直ぐに救援が来る可能性は低く、立ち往生した場合、一般犯罪などに巻きこまれるなど二次被害につながるリスクが発生します。日頃から車両を整備しましょう。

主な日常走行前点検項目

- タイヤ（予備タイヤ）の空気圧、摩耗状況
- 燃料
- エンジンオイル
- 冷却水、バッテリー液
- ライト、ウインカー
- ブレーキランプ、バックランプ
- ブレーキペダル、ワイパー
- 工具類、ファーストエイド

(2) もしも事故を起こしてしまったら

交通事故を起こしてしまった場合、国、地域の事情によって、対処が違います。交通事情と交通事故時の対処法を、事前によく確認しておきましょう。

警察・事務所等への迅速な通報と報告

- 直ぐに携帯電話や無線で救助を求めてください。(緊急時連絡先：JICA 在外拠点、同僚、スタッフ、カウンターパート、知人) また、迅速に関係者へ連絡してください。
- 集まってきた野次馬などから暴力を受けることがあるので、警察署へ避難したり、そのまま立ち去って(事後申告を忘れずに) 自衛手段を講じることも検討してください(地域事情を確認しておきましょう)。
- 救急車が依頼できない場合、被害者を病院へ搬送することを検討してください。
- 警察署や病院の所在地を事前に実査しておきましょう。

現場で事故原因等の言い争いはしない

- 相手方(名前、連絡先、ナンバー、車種等)についてメモを取り、必ず確認してください。
- 逆に相手から連絡先を要求された場合は、所属先の連絡先(所在地・電話番号)を伝えてください。
- 被害者や周囲の人を刺激するような言動はしないでください。

【飲酒運転は絶対禁止】

受入国の社会通念上における飲酒運転の許容範囲や道路交通法での取扱いに関わらず、JICAでは日本国同様、自動車・バイク・四輪車の飲酒運転は**酒量に関わらず厳禁**としています。また、

- 運転する人に、酒を勧めること(種類提供罪)
- 飲酒している人に運転を依頼すること(車両提供罪)
- 飲酒運転の車両に同乗すること(同乗罪)

とそれぞれの罪に問われる場合があります。いずれのケースも発覚した場合は、適性を欠く者と判断され、厳正に対処されます。

i

自動車保険

海外での自動車事故に関しては、ほとんどの海外旅行保険が保障の対象外のため、現地の自動車保険の加入が必須です。自動車損害賠償保険、車両保険、盗難保険、搭乗者傷害などの加入を検討してください。



i

途上国でタクシーを利用する場合、交通事故だけでなく、タクシーを利用した犯罪に巻き込まれることがあります。

- 人気のない場所に連れて行き、現金や荷物などを奪う強盗
- 性犯罪
- キャッシュカードの暗証番号を聞き、お金を引き出させる特急誘拐
- 料金のぼったくり、過剰請求

現地の人から情報を収集し、安全なタクシーと危険なタクシーを見極めてください。また、流しのタクシーを利用しないでください。

ケーススタディ⑭

『タクシー』

途上国では、タクシーを利用することが多くありますが、タクシー運転手の中には、センターラインをオーバーして対向車線を走ったり、スピードを出して無理な追い越しをするなど乱暴な運転手が多く存在します。

事例

空港から街中へタクシーを利用して移動していた。途中、ドライバーが道に迷ったので、地図を渡したところ、差し出した地図を見ながら前方をよく見ずに運転していたため、センターラインを大きくはみ出していた。幸い対向車が無く事故にはならなかった。

対策

- 乗車前に、車両の傷やヘコミなどを確認し、普段から安全運転をしている車か観察する。
- シートベルトが付いていないタクシーには乗らない。
- 乗車時には目的地を確認し、出発前にドライバーに伝える。
- ドライバーの挙動が不審であったり、車が蛇行していると感じたら、車を止めさせてすぐに降りる。

車両との接触や動物との衝突による人身交通事故につながりやすく、また、路面の穴や轍、崩れた路肩などで転倒する自損事故が発生しやすいなどリスクが非常に高いため

JICA関係者のバイクタクシー使用禁止 とバイク二人乗りの禁止

事故事例

- 酒気帯び運転のバイクに二人乗り走行していたところ駐車車両に追突した。
 - 職場の同僚が運転するのバイクに乗り帰宅途中、対向車両と正面衝突した。
- ※いずれの事故も大怪我を負っています。



5 テロ・暴動(騒擾)・誘拐対策

(1)テロから身を守るには

テロの概要

テロとは、特定の主義・主張(宗教、思想、民族、国家などのイデオロギー)の達成を目的に、暴力や破壊活動を行うことです。個人的な恨みや金銭目的などの暴力・破壊活動とは、区別されます。

国際法上におけるテロの定義は存在しません。目的や主義、ターゲットは違っても、自分達が信じる正義を主張する手段として建物を破壊し、人々を傷つけ、ニュースやインターネットなど最も効果的な方法で、自らの活動を世間に知らしめようとすることは共通です。

テロは、「**どこの国や地域でも発生しうるリスク**」と認識することが大切です。

渡航先においてもテロが行われる可能性があることを念頭に、平時から社会・政治情勢等に関する情報を収集してください。

また、事件発生時の適切な行動等に関するイメージトレーニングを行うなど、平時から準備を行ってください。

テロは、誰が行うか？

- 反政府組織
- 国際テロ組織
- 個人テロリスト



具体的な対策（その1）

■テロの対象となる場所・イベント・時期を避ける

テロリストが、テロ行為を効果的・効率的に達成するために、ターゲットに選ぶ場所・時期などを考えてみてください。

〈テロのターゲット基準〉

- 敵と考える物・人へ多く損害を与え、恐怖を植え付けることができる。
- 多くの被害を出すことにより、国際宣伝効果が大きく得られる。
- 敵である外国人、異教徒、政府要人などが多く集まる場所・時間をターゲットとする。

具体的な時期は？

- 政治関連の時期 → 独立記念日、選挙、国際会議、法改正、増税など
- 宗教関連の時期 → クリスマス、イースター、ラマダンなど
- 人が多く集まる時期 → 年末、お祭り開催、イベント開催、休暇時期など

具体的な場所は？

- 政治的な場所 → 反政府組織であれば軍や警察、政府機関など
- 宗教的な場所 → 寺院や教会など
- 不特定多数が集まり
警備が手薄な場所 → 空港（出発・到着ロビー）、駅、列車（地下鉄）、市場など
ショッピングセンター、ホテル、レストラン、カフェなど
ナイトクラブ、コンサート会場など
スポーツイベント会場、集会場、結婚式場、有名観光地、観光施設など

滞在国や地域において情報を収集し、どの時期にどのような場所が危険か考えてください。止むを得ずに外出する場合も、特に人が多く集まる**ピークの時間帯は避ける、長く留まらないなど、テロに遭遇するリスクを可能な限り回避できる行動を心がけてください。**

具体的な対策(その2)

無差別テロの襲撃に巻き込まれたら
以下の3つの行動で、自分の生命を守って下さい。

逃げる(Run)

- 異変を感じたら、先ずはその場から急いで離れる。
- 銃や爆弾などの脅威から、出来るだけ離脱する。
- 表玄関、裏口等はテロリストが待ち伏せしている可能性が高いため、様々なルートからの脱出を検討し、冷静に行動する。



隠れる(Hide)

- 逃げる事が出来なかったら、テロリストに見つからない場所に身を隠す(鍵のかかる部屋、ベッド、デスク、カウンターの下や後など)。
- ドアなどの鍵が無ければ、机や椅子などでバリケードを作る。
- 必ず照明を消し、携帯電話の着信音・バイブレーションを切る。



闘う(Fight)

- あらゆる手段を講じてもテロリストのターゲットとなることを回避できず、生命の危機が高まった際の最後の手段(正当防衛・緊急避難)。
- 可能な限り有効な武器(周囲にある物)を手にして反撃する。
- テロリストを倒すのではなく、あくまでも相手と安全な距離を確保し、逃げる事が大切。
- 闘うことを目的に行動してはいけない。可能であればチャンスをみて逃げる。



ケーススタディ⑮

『襲撃テロ』



ショッピングモール!!週末ピーク時が狙われた!!

事例

2013年9月、ケニアの首都ナイロビにある高級ショッピングモールをイスラム過激派の武装集団が襲撃し、人質を取って立てこもった。観光客に人気のある高級ショッピングモールでの襲撃事件で、民間人61人、兵士6人が死亡、240人以上が負傷した。

対策

- テロはいつ、どこでも起きると想定して行動する。
- セキュリティのしっかりしている施設を利用する。
- 人の多いピーク時間帯の利用は避ける。
- 短時間で買い物を済ませる。
- 非常口や非常階段などの位置関係を、把握しておく。
- 身を隠すことができる場所を、シミュレーションしてみる。
- 出来るだけ、ガラスの多い場所から離れる。
- 周囲の異変や物音には敏感になって、危険を感じたらすぐに逃げる。



レストランやカフェでは？

- 入店時に、非常口や厨房の位置を把握してください。
- 身を隠すことができる場所を、シミュレーションしてください。
- ガラスの多い場所から、できるだけ離れて座ってください。
- 外から見える窓側の席、テラス席は避けてください。
- 万が一、店外で発砲音がしても、直ぐには飛び出さないようにしてください。
- 入口から入ってくる人を、確認できる位置に座ってください。

ケーススタディ⑩

『車両テロ』

人の多い場所やイベントは注意!!

事 例

- 〈事例①〉2016年12月、ドイツ・ベルリン中心部で買い物客で混雑していたクリスマスマーケットに、テロリストが運転する大型のトラックが突入し、出店していた多数の屋台をなぎ倒して走行し、12人が死亡、56人が負傷した。
- 〈事例②〉2017年6月、英国・ロンドン中心部の有名観光地ロンドン橋で、テロリストが運転したワゴン車が歩行者数人を轢き、その後、車から降りて人々に刃物で斬り付け、8人が死亡、48人が負傷した。

対 策

- 極端に人混みの多い場所や時間、イベントなどへの外出は避ける。
- バス停や標識、ガードレールなど車道から歩道への障害物が無い道路は、なるべく利用しない。やむを得ない場合は、道路寄りを歩かない。
- 車の動きが見える様に、車の進行方向と対向の歩道を歩く。
- 物音や騒ぎには敏感になり、危険を感じたらすぐに逃げる。
- ナイフを見かけたら「ナイフ!」と叫び、周囲の人々に危険を知らせる。
- ナイフで襲われたら、鞆などを盾にして逃げる。



ローンウルフ型テロリスト

「ローンウルフ型テロリスト」とは、何らかのテロ組織に共感しているケースがありますが、組織に所属せずに単独で犯行におよぶ過激主義者のテロリストのことです。基本的に、犯行計画やターゲットの選択はすべて自分で行い、必要な資金もすべて自身で準備して実行します。多くの場合、ターゲットにされるのはソフトターゲットと呼ばれる一般市民です。テロの手段として、爆弾や銃を使用する場合がありますが、イスラム過激派組織IS(イスラム国)は、ローンウルフ型テロリストに対し、容易に入手できる車両やナイフを使用したテロを行うよう呼び掛けています。

ケーススタディ⑰

『爆弾テロ』

空港も狙われる可能性がある!!!

事例

2016年3月、ベルギーのブリュッセル空港出発ロビーにおいて、搭乗手続きで混雑していたチェックインカウンター付近で2回の爆発が発生し、一連の連続テロで多くの犠牲者が出た。実行犯とされる5人のうち3人は自爆死し、逃走した2人は逮捕された。

対策

- チェックイン後、なるべく早く出国ゲートへ向かう。ロビー滞在時間はなるべく短くする(到着後の入国ロビーも危険なため、なるべく早く安全な場所へ移動する)。
- 事前にガラスが多い場所をチェックしておき、ガラス破片でケガをしないように、ガラスが多い場所からできるだけ離れる。
- 周囲の物音や異変に敏感になり、何かを感じたらすぐ逃げる。
- テロに遭遇したら、頑丈な柱の裏などに身を隠す。



爆弾テロは2発目に気をつける

ベルギーのブリュッセル空港の爆弾テロ事件では、1度目の爆発で被害対処や負傷者を救助する警察・消防・救急が集まったところに2度目の爆発を起こして、より甚大な被害を与えようとしていました。1発目の爆弾爆発後に、更には人が集まる逃げ口を狙って2発目の爆弾を爆発させたり、被害の最大化を狙った攻撃を意図的に仕掛けてきます。爆発があった場合は、状況を冷静に観察して判断することが大切です。



ケーススタディ¹⁸

『爆破予告』

事例

会社に爆破を予告するメールが届いた。爆発の日時などの情報はないためいたずらと思ったが、念の為、スタッフを一時避難させて警察へ連絡し、爆発物及び不審物を捜索した。不審物は見つからず、犯人の特定も出来ず、目的も不明であった。

対策

- 脅威の情報を直ちにJICA在外拠点へ連絡して、対応・対策を相談する。
- 出入りする人、郵便物や小包等の検査をしっかりと行う。
- 整備された環境や監視の行き届いた場所には、テロリストは爆弾を設置しにくいため、不審物が置かれても直ぐに発見できるよう普段から環境整備(整理整頓)を行う。
- 日頃から、不審物が無いか、不審者はいないか、など関係者で注意し、ごみ箱や植栽の陰など、爆破物を設置しやすい場所は常に注意を払い、警備員による点検を行う。
- 外周道路の路上駐車を禁止する。
- 避難経路を決めて、定期的に爆弾予告に対する避難訓練を行う。



爆破予告電話を受けた場合の対応

脅迫の真偽を判断し、退避すべきか否かの決定を迅速に行う必要があります。明らかにいたずらと考えられる場合を除き、本物の爆弾の可能性が あるものとして対応すべきです。

- 脅迫電話を受けたことをJICA 在外拠点へ通報する。また、カウンターパート機関などに知らせる。
- 通話内容からできる限りの情報を入手する(爆発物設置場所、爆発時刻など)。
- 悪戯と考えず、対応する。
- 会話の詳細を記録・録音する。
- 現地警察に通報する。
- 安全な場所へ避難する。

参考:爆弾・爆発の脅威

爆弾は、爆発と共に破片・爆風・熱の3つの脅威が発生し、周辺に多大な被害を与えます。

爆発による身体的被害例

- 飛散する破片による外傷
- 爆風による肺や鼓膜の破裂、四肢の切断、皮膚や内臓の裂傷の他、脳損傷
- 爆風で吹き飛ばされて地面に転倒、または壁に衝突して打撲や外傷、脳損傷
- 爆発で発生する化学物質や粉塵等による呼吸器官損傷

破片や爆風で割れたガラスが人体への被害を大きくするので、施設(空港、ショッピングセンターなど)では、**出来るだけガラスから遠ざかってください。**

爆発による身体的被害の軽減

テロリストの襲撃や爆発音を聞いた場合、写真のようにその場に伏せて身体被害を受け難い姿勢を取ってガードする。



爆発物テロとして手製爆弾(IED)が多く使用されています。鞆や袋に入れたり、本やラジオ、パソコンなどの電気製品などに偽装させているケースがあるので、**不自然な場所に不自然なもの**があったら、**安易に触れたり蹴ったりせず、すぐに警察へ通報しましょう。**

(2) 暴動（騒擾）対策

暴動（騒擾）から身を守る

フラストレーションはどこに向かうかわからない。

政府だけでなく、外国人というだけで略奪などのターゲットにされてしまう可能性があります。

万が一、暴動などが発生したら、以下の点を留意の上、冷静に行動してください。



- デモ等の現場に遭遇した場合には速やかにその場を離れ、JICA在外拠点及び所属先などの関係者へ状況を連絡しましょう。
- 内乱や暴動、騒乱に巻きこまれる可能性はいつでもあります。外部との連絡が可能な避難場所を検討しておきましょう。
- 日頃から集会やデモの情報を収集し、外出中にいつもと様子が違うデモ・騒乱等の何らかの兆候（人や車が引き返している、市内、道路にいつになく人気がなく、静まりかえっている、沿道に警察官が多く立っている、道路封鎖が行われている）を感じたら、迷わず引き返すか迂回して、危険な場所から遠ざかってください。
- 爆発音が聞こえ煙が立ち上っている場合は、二次的な爆発や群衆のパニックに巻き込まれる恐れがあるので、絶対に見物はやめてください。
- 大規模なデモや暴動等の発生時には外出を控え、自宅にいる場合は出勤せずに待機し、職場等出先にいる場合はその場で情報を収集し、移動せず待機してください。
- 流言や未確認情報が多く飛び交うことが想定されますが、これらに惑わされず冷静に行動してください。

ケーススタディ¹⁹

『デモ・暴動』



デモや集会の情報には敏感に!!

被害内容

数日前から、政府に対するデモが市内各所で行われていた。ある朝の通勤時、異様なほど人通りや車両の通行が少ないため不審に思ったが、そのまま出勤した。出勤後、市内の各所に集まっていたデモ隊が暴徒化したことが判明し、スタッフ達は自宅に戻れなくなってしまった。

対 策

- デモや集会情報に常に気をつける。外出中にいつもと様子が違うなど、デモ・騒乱等の何らかの兆候(人や車が引き返している、市内、道路にいつになく人がなく静まりかえっている、沿道に警察官が多く立っている、道路封鎖が行われている)を感じたら、迷わず引き返すか迂回して、危険地区から遠ざかる。
- JICA在外拠点へ連絡し、他のJICA関係者と情報を共有する。



ベースライン(日常の姿を押さえておく)

いつもの通勤路やよく利用するスーパーマーケットの人や車の数、家やオフィス周辺や街の雑音など、普段のベースラインを感覚的に覚えておいてください。そして変化があり、「不自然」と感じたら、「何か変だな?」と思うだけではなく、何かが起こっていると考えて情報を集め、危険に近づかない様に注意してください。

(3) 誘拐対策

誘拐の目的

誘拐は、ひとたび発生すると解決が極めて難しい事案です。営利目的・政治目的・テロ目的などの種類がありますが、多くは標的を絞り、綿密な計画のもと実行されます。このため、標的とならないことが最大の対策となります。

政治目的やテロ目的の誘拐

- 宣伝効果を狙った誘拐
- 人質交換や政治的要求の交渉を狙った誘拐
- 身代金を狙った誘拐
- 惨殺など恐怖を誘う誘拐

営利(ビジネス)目的の誘拐

- 身代金が目的



| | |
|---------|-------------------------------|
| 身代金要求 | 数ヶ月から数年の長期間にわたる人質拘束もあり得る |
| 特急誘拐 | 短時間から1日程度の拘束中にATMで現金を引き出させる手口 |
| バーチャル誘拐 | 実際には誘拐せず身代金を要求する詐欺の手法 |

i

襲撃占拠による人質

- 誘拐以外に、テロリストが人質を取って建物に立て籠もるというケースがあります。多くは身代金目的ではなく、政治的要求や自らの主張を世間に訴えることが目的です。また、その場で殺害されるケースも発生しています。
- 万が一、人質となった場合は助かると信じて落ち着き、体力を温存するように努めてください。
- 救出部隊が突入する際、電気を落として催涙弾やスタングレナード(閃光弾)などを使用し、視界や感覚を奪うことがあります。落ち着いて行動してください。
- 救出部隊が突入した際には、流れ弾に当たったり犯人と間違えられないよう床に伏せ遮蔽物に隠れて、身の安全を確保してください。

誘拐のターゲットにならない

計画段階でターゲットになるのは

- 誘拐の目的を達成できる者であること。
- 接近が容易であること。
- 特定の時間、場所にいることが予測可能なこと。
- 防御態勢が弱いもの。

下調べをしている誘拐犯にとって、ルーティーン的な行動は、時間・場所・行動人数などを把握しやすくなります。

・・・誘拐計画を立てにくくするにはどうしたら良いでしょう？

行動をパターン化しない

いつも同じ時間に同じ場所に居ると、犯罪者にとって犯行の計画を立てやすくなります。いつも同じ行動パターンとならないよう、例えば、通勤時は家を出る時間を毎日ズラして通勤ルートと複数のルートを組み合わせてランダムに変えるなど、パターン化しないよう気をつけてください。また、出来るだけ単独行動をせずに、ターゲットにならない状況を作ってください。

誘拐の準備



下調べ



計画



準備



実行

テロ組織や誘拐犯(グループ)は、事前にターゲットとなる人物の行動パターンを調べ ①ターゲットに相応しいか ②襲撃の方法 ③襲撃時間 ④襲撃場所 など綿密に計画し準備をします。

予兆を見逃さない

日頃から、自分の周囲のちょっとした変化を見分けるセンスを磨くことが肝心です。以下の異変がないか、注意して過ごしてください。

- 周辺や移動時に不審な人物・車両はないか
- 見張られている感じはないか
- 不審な車やオートバイにつけられたことはないか
- 現地の人とトラブルはないか
- 無言電話はないか
- 脅迫や献金の要求、誘拐の予告などないか



誘拐の兆候がみられたら

ターゲットから外れるためには

- まずは、JICA在外拠点へ相談してください。
- その上で、信頼できる地元の治安機関に誘拐の兆候を伝え、助言を求めてください。
- 単独行動はせず、出来るだけ外出を控えてください。
- 出勤ルートや時間を変更し、移動時は複数の車両、警護車両などを利用してください。
- ボディガードを雇用し、自宅のセキュリティを強化してください。
- 自宅を離れ、ホテル等へ滞在することを考慮してください。
- 可能であれば国外への脱出を検討してください(一時避難)。
- 信用できる周囲の人(勤務先、家族)と情報を共有してください。

もしも誘拐されてしまったら

人質は、生かしておくことに価値がある

- 誘拐には目的があり、その目的のために犯人は人質を生かしておくケースが多くあります。監禁状態であっても、自分を救出する為に尽力してくれている人がいることを信じて気を強く持ち、長い目で物事を捉え、解放の機会を待つことが大切です。

生存証明のための情報伝達方法

- 犯人から身代金要求などの連絡があった際、生きていることを確認するために本人と家族しか分からないこと、例えば結婚記念日や卒業学校名を犯人に質問してください。



監禁

- 犯人から反感を買わないようにしてください。言い争ったり、刺激したり、イライラさせてトラブルメーカーだと思われないようにしてください。出来るだけ物腰柔らかく接して、犯人と良好な関係を保ってください。
- 同じ人間であることを認識させるため、自分のことを名前で呼ばせて相手も名前で呼ぶなど、良い関係を作ってください。
- 思想や宗教、政治などについて議論は避けてください。むしろ、趣味やスポーツなど共通の話題で人間味ある人物だと思わせるようにしてください。
- 適度な運動をして可能な限り健康な状態を保ってください。必要な場合は、薬を要求してください。
- 自分の空間をつくり、出来るだけ整理整頓を行い、忍耐力を発揮して自らを律し、正気を保つよう努力してください。

ケーススタディ⑳

『拉致・誘拐』



誘拐犯はチャンスを狙っている!

被害内容

取引先会社のドライバーと顔見知りとなり、週末に郊外の観光地へ案内すると誘われ、ドライバーの友人を含め4人でドライブに行った。しばらく山道を進んだところで、ドライバーの知り合いという男性数名が待っていた。ただならぬ気配に危険を感じ、友人と2人で車を降り走って山道を引き返した。翌日、取引先の会社へ連絡したところ、ドライバーは既に会社をクビになり逮捕されていた。その後の調べで、ドライバーは、人目の付かない人里離れた所に監禁場所を用意して、誘拐する目的で誘い出したことがわかった。

対 策

- 親しくなった人でも、悪意を持って接近している場合があることを意識して、常に用心を怠らない。
- 真に信用できる人物以外とは、安易に誘いにのらない。



地方型誘拐

人里離れた場所で発生する「地方型誘拐」は、犯人グループのテリトリーの中で多く発生します。また、事前にターゲットを選定する以外に、テロ組織や誘拐グループの活動地域に不用意に立ち入って来た者を誘拐する場合があります。

不用意に、犯罪組織や反政府組織・テロ組織などが活動する地域などに近づいたり、入り込んだりしないよう、訪問や通行する地域の情報を事前に確認してください。

テロ勢力による車上襲撃

イスラーム武装勢力などのテロ手法において、もっとも対策が難しいものの一つが車上襲撃です。これまでも世界各地で外国人や援助関係者が標的となっています。車上強盗はもとより、誘拐・人質、場合によっては殺害されることもあり、26ページ「ケーススタディ⑧車上襲撃」とは異なる次元のケースと捉えるべきです。

標的は、犯行側が事前に見定めたいえ周到にテロが計画されるケースが多く、ひとたび標的となれば、武装警護も含め対抗する手立てがないのが特徴の一つです。またアジア人や日本人は標的にならない、というのも全く根拠のない迷信です。他方、このようなテロは犯行側にも大きなリスクがあり、実行能力上、地理的範囲はあらかじめ想定できるとも考えられています。

対策としては、人質、誘拐、殺害などの事案が報告されている地域への渡航を絶対に避けることです。またそのような潜在的リスクがあるとみられる地域に渡航する場合は、45～47ページを参照にロープロファイルに徹し、標的とされない行動を心がけてください。



6 健康管理

蚊を媒介とする感染症

(1) マラリア

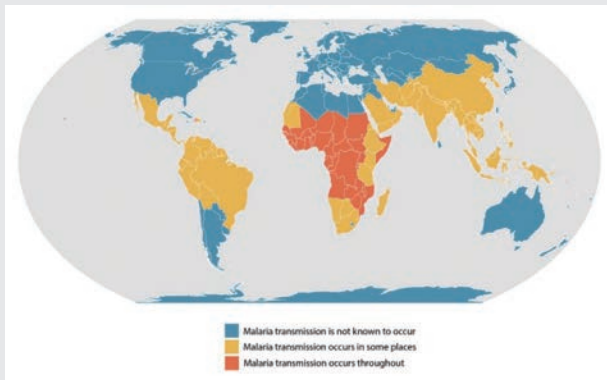
マラリアはマラリア原虫をもった蚊（ハマダラカ属）に刺されることで感染する病気です。

世界中の熱帯・亜熱帯地域（アフリカ、とくに中央部と西部に多い）で流行しており、2018年11月に公表された統計によると、1年間に約2億2000万人が感染し、推計43万5,000人が死亡しています。日本でも60人前後が輸入感染症として届け出られています。

1週間から4週間ほどの潜伏期間において、発熱、寒気、頭痛、嘔吐、関節痛、筋肉痛があります。重症になると、ひきつけ、意識障害、出血傾向、脳や腎臓にダメージがでます。

熱帯熱マラリアは進行が速く、速やかに治療しないと死に至る危険があります。

マラリアのリスクのある国(2021年)



FORTHより

マラリアの感染予防対策

(1) 防蚊対策

- ①就寝時は必ず蚊帳を使用しましょう。防虫剤や蚊忌避剤を織り込んだ蚊帳が効果的です。
- ②ハマダラ蚊の活動時間帯(夕方～明け方までの間)は外出を避けましょう。忌避剤(虫除け剤)を塗りましょう。夏などの汗のかきやすい時期には適宜塗りなおすことが大切です。日焼け止めを併用するときは、必ず最後に虫よけ剤を使用しましょう。虫よけ剤は、DEET、イカリジン、天然植物由来成分等があります。使用する際はそれぞれの特性を理解して使用しましょう(植物由来成分は効果が低いです)。
- ③肌の露出を最小限にしましょう。長袖、長ズボン、靴下を着用しましょう。素足でサンダルを履かず、明るい色(白っぽい色)の衣服を着用しましょう。
- ④蚊が屋内に侵入しないよう窓や玄関に網戸を設置しましょう。隙間があれば、スポンジや段ボール等を利用して埋めます。網戸が設置できない住居は、蚊帳を窓枠に合わせて切り貼りし代用すると良いです。
- ⑤蚊取り線香や電気蚊取りを使用しましょう。屋内で使用するピレスロイド系のワンプッシュスプレーも効果があります。
- ⑥こまめにシャワーを使い身体を清潔に保ちましょう。飲酒後は蚊が集まり易いので特に注意しましょう。
- ⑦香水などの香りの強いものは使用しないでください。

(2) マラリア予防薬

マラリア予防薬(マラロン、ドキシサイクリン、メフロキシン)は、マラリア流行国ではOTC(薬局で購入できる医薬品)であることが多いですが、日本では医師に処方してもらう必要があります。

予防薬服用に際し、必ず医師や薬剤師、健康管理員に相談し、各薬剤の添付文書を読んで作用等について十分理解した上で服用するかどうか検討してください。



蚊を媒介とする感染症

(2) デング熱

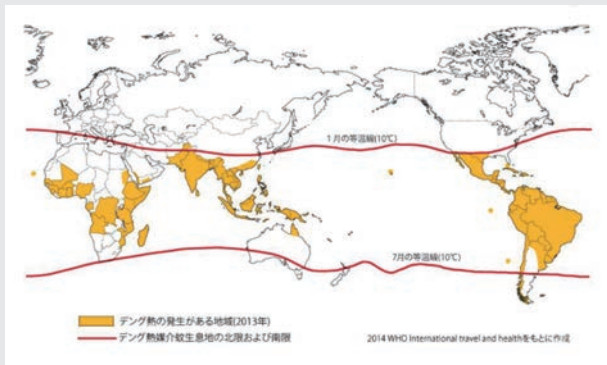
デング熱はウイルスをもったネッタイシマカやヒトスジシマカなどに刺されることで感染します。ヒトスジシマカは、ヤブ蚊とも呼ばれ、日本にも生息しています。不顕性感染を含めウイルスに感染した人を蚊が刺すと、1週間ほどで蚊の体内でウイルス量が増えて人に感染させ得る状態になります。その蚊に人が刺されると感染する可能性があります。ヒトからヒトへ直接感染することはありません。

デング熱はアジア、ラテンアメリカが流行地域となっています。

2～14日（通常3～7日）の潜伏期間の後、およそ2-4割の人に38～40℃の発熱で発症し、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹が現れます。通常、死に至る危険は少ないです。3～5日で解熱し、解熱とともに発疹が現れます。発疹は治りかけたときに出現します。

血小板が低下し、出血を起こしやすくなるので、治療にはアセトアミノフェン（海外ではパラセタモールとの名で販売されています）を使用してください。

デング熱のリスクのある国



FORTHより

(3) 狂犬病

狂犬病は世界中で年間5万人以上が死亡しているとされる、人畜共通の感染症です。感染後、発症した場合の**死亡率はほぼ100%**のため、狂犬病ウイルスに感染した可能性がある場合には予防が必要になります。WHOによると、狂犬病ワクチンを暴露前に接種することで95%以上の防御効果を得られるといわれています。

世界各地の狂犬病媒介動物



FORTHより

狂犬病の症状

- 前駆期：発熱、食欲不振、咬傷部位の痛みや掻痒感
- 急性神経症状期：不安感、恐水及び恐風症状、興奮性、麻痺、幻覚、精神錯乱などの神経症状
- 昏睡期：昏睡（呼吸障害によりほぼ100%が死亡）

暴露前接種

渡航地で動物と接する機会が多い場合には、暴露前接種という方法があります。国内で承認されているワクチンは2種類あり接種方法が異なりますが、いずれも暴露前の場合は基本的には3回の接種が必要です。実際の接種方法については医師とよく相談してください。途上国では狂犬病ワクチン、グローブリンが入手できないこともありますので、しっかりと日本で予防接種を受けてから渡航しましょう。

動物咬傷の対処法

- ①患部の十分な洗浄をしましょう。
- ②医療機関を受診して、傷の手当てをうけて暴露後ワクチン接種の必要の有無を確認しましょう。暴露前接種を実施している場合でも、咬まれた後は必ず暴露後接種も実施する必要があります。

必要に応じて、破傷風ワクチンや抗菌薬が処方あります。

***免疫グロブリンを指示された際は、投与前に医師からの説明をしっかりと受けましょう。**

- ③加害動物を10日間(イヌ、ネコ、フェレット以外は14日間)観察してください。

<狂犬病暴露後予防の適応について：WHO Expert Consultation on Rabies より>

| | カテゴリーⅠ | カテゴリーⅡ | カテゴリーⅢ |
|-----------------|------------------------------|--|--|
| 狂犬病の感染が否定できない動物 | 動物を撫でた、餌を与えた 傷の無い皮膚を舐められた | 素肌を軽く咬まれた、または小さなひっかき傷やかすり傷があるが <u>出血はない</u> | 皮膚を破る咬傷や引っ掻き傷があり出血がある、または傷がある皮膚を舐められた、 <u>コウモリによる曝露。</u> |
| 曝露後予防の推奨 | 接触歴が信頼できれば、治療は不要 | 直ちに狂犬病ワクチンを投与。 加害動物が10日間(イヌ、ネコ、フェレット以外は14日間)の観察期間後も健全な場合、または、適切な検査で陰性と診断されれば接種を中止してもよい。 | 直ちに抗狂犬病免疫グロブリン ¹ と狂犬病ワクチンを投与。加害動物が10日間(イヌ、ネコ、フェレット以外は14日間)の観察期間後も健全な場合、または、適切な検査で陰性と診断されれば接種を中止してもよい。 |

FORTHより

かわいい動物にだまされないで!!!

日本では法律によって犬の予防接種が義務づけられているので、狂犬病の発生がなくその危険が忘れられています。海外ではむやみに犬や野生の動物に近づいて手を出したり、なでたりすることは慎んでください。



(4)旅行者下痢症

旅行者下痢症の明確な定義はありませんが旅行中もしくは帰国後に24時間あたり3回以上の下痢になんらかの随伴症状（悪心・嘔吐、我慢できない便意、しづり腹、血便、粘血便といった消化器症状や発熱など）を認めた場合、旅行者下痢症とみなすのが一般的です。旅行者下痢症の原因はさまざまで、衛生状態の劣悪な環境では、病原性細菌やウイルス、原虫、寄生虫が原因のことが多く、汚染された生水、氷、魚介類、乳製品、肉類、生野菜、カットフルーツといった食材をはじめ、加熱調理不十分な料理を摂取した場合に生じます。それ以外にも、旅行による環境変化からくる不安やストレス、疲労あるいは現地食習慣の違い（硬水やオリーブ油、香辛料）などにより下痢を起こすこともあります。

旅行者下痢症は細菌やウイルス、寄生虫などの病原体が原因（病原性大腸菌、カンピロバクター、アエロモナス・プレシオマナス、赤痢菌、コレラ菌、赤痢アメーバ、ノロウイルスなど）となり起こるものと、滞在先の食事の変化や時差、ストレスなどの環境の変化の2つに大別されます。



予防策

①沸騰した水を使う

生水、水道水は病原菌が含まれている可能性がありますので飲んではいけません。衛生環境の良い日本で育った日本人と現地の人とでは体内環境が違いますので、「現地の人が飲んでいいるから大丈夫」という基準は通用しません。またジュースに入っている氷や、サラダを洗った水が感染源になる場合もありますので、飲料は氷無しにするかペットボトルを購入し、生サラダは控えましょう。さらに日本の水道水は軟水ですが、海外はミネラルの多い硬水であることが多く、カルシウムやマグネシウムの多い硬水を急に沢山飲むと下痢につながります。飲みなれている硬度の水を選びましょう。

②加熱したものを食べる

生の魚介類や肉、サラダ、生の乳製品、皮を剥いてある果物は感染症を引き起こす可能性があります。食事の際は十分に火の通った、加熱したものを食べましょう。

③屋台、外食の食事は避ける

安全面や衛生面をしっかりと考慮しましょう。

④経口補水液を準備する

脱水が悪化しないよう水分をしっかりととりましょう。

⑤医療機関を受診する

自分の判断で下痢止めを服用せず、現地の医師の指示にそって対応しましょう。特に発熱、血便や業務に支障のある下痢の場合は直ちに受診しましょう。

Medicommi より



(5)メンタルヘルス

海外では慣れない環境のために、身体にもこころにも大きな変化を伴うだけでなく、安全面での行動にも影響を与えます。日々の生活習慣や食生活、言語や気候、文化などさまざまな場面でカルチャーショックを経験します。そのような暮らしのなかで、日本では経験したことのない不安やこころの不調を感じることは珍しいことではありません。事前に海外で生活するとどのようにこころは変化するのか知っておくことがまずは大切です。



渡航前から帰国後までの心の変化

●渡航前

新しい環境での生活に対する不安が募る時期。身体やこころの不調が現れることもあります。

●赴任後～数か月

新しい環境での生活に、気持ちが高ぶりやすい時期、忙しく過ぎていくため、疲れに気づかず無理してしまいがちです。

●数か月～1年

少しずつ慣れてくる一方、現実がみえてくる時期。言語や習慣の違いを実感し始め、気持ちが落ち込むこともあります。

●1年以上過ぎてから

言語や習慣にも慣れ、現地に溶け込み楽しめるようになる時期。緊張や不安は徐々に緩んできます。

●2～3年以降

母国が懐かしくなる時期。また仲の良い友人の帰国により孤独感や不安感を感じることもあります。

●帰国後

自国へ帰ってきた安堵感がある一方、自国の文化などに疑問を感じることもあります。

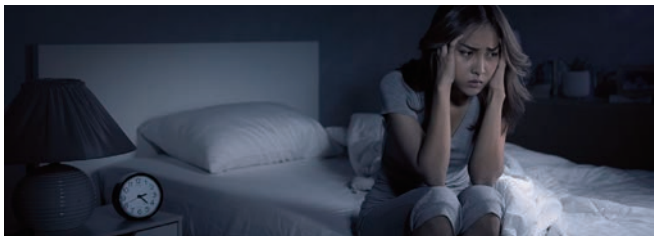
1. 定期的にセルフチェックをしましょう！

過去2週間であなたの状態についてあてはまるものはありますか？

- イライラして怒りっぽくなった
- 不安でそわそわして、物事に集中できなくなった
- 気持ちが憂鬱で、何事にも興味がわからず億劫になった
- 周りの視線が気になるようになった
- 寝つきが悪くなったり、夜中や明け方に目が覚めるようになった
- 頭痛や腰痛、肩こりなど身体の調子が悪くなった
- お酒の量が増えた
- 体重の減少、または増加が激しい
- 遠くへ行きたい、消えてしまいたいと感じる
- 自分を責めるようになった
- 動悸、息苦しさがある

上記のような症状も自分一人では「まだ大丈夫」「そこまでひどくない」と思い、見過ごしてしまうこともあります。普段から家族や友人、同僚などこまめにコミュニケーションをとり、お互いをチェックすることが大切です。あなたの周囲の人であれ？と思ったら、以下の項目にも注意してみてください。

- 欠勤、遅刻、早退が増えた
- 仕事の能率が下がり、ミスが目立つようになった
- 周囲の人との付き合いを避けるようになった
- 周囲の人が自分の悪口や噂を言っていると話すなど、周囲の人の言動を気にするようになった
- 服装や身だしなみが乱れ、不潔になった、または極端に潔癖になった



2. セルフケアをしてみましょう!!

こころの不調そのままにしておくとは日常生活に支障をきたすほど重篤化することもあります。こころの不調も身体の不調と同様、予防・早期発見・早期治療がとても大切です。

●規則正しい生活を送ろう

食事: 海外での食生活は自分が思っているよりも偏食になります。食べ慣れている和食を取り入れるなど栄養バランスの良い食事摂取を心がけましょう。

適度な運動: 一日15分程度は身体を動かし、体の緊張をほぐしてあげましょう。

睡眠: 就寝前の喫煙、スマホの使用、飲酒、カフェイン摂取は止めましょう。起きたら日光を浴びて体を起こしてあげましょう。

仕事: 働きすぎで無理を続けないようにしましょう。

●リラックスをしよう

ゆっくりと気持ちを落ち着かせて体を休ませてあげましょう。

●自分を大切にしよう

自分にとって楽しいことや自分のために使える時間を作りましょう。

●交流をもとう

海外では気づくと孤立していた、ということも珍しくありません。周囲との交流を持つようにしましょう。また、家族や友人と一日の出来事についてお互いに話すように心がけましょう。日本にいる家族との電話やメールも大事な交流です。

●周囲の人に相談しよう

周囲からの適切なサポートが得られる人はストレスの悪影響を受けにくいと言われています。母国語で話ができ文化の違いを気にしなくて良い同国出身者との関係は、海外でのストレスや不安の軽減に役立ちます。

こころの不調そのままにしておくとは日常生活に支障をきたすほど重篤化することもあります。こころの不調も身体の不調と同様、予防・早期発見・早期治療がとても大切です。

●専門家に相談しよう

JICAには精神科、心療内科の顧問医がおり、相談することが可能です。身近な人に相談しにくいときは、一人で悩まず早めに専門家に相談してみましょう。

国立国際医療研究センター（海外滞在中のこころの健康）より

7 安全対策チェックリスト

渡航前の準備

- 渡航先の治安情報や危険情報、JICAの安全対策措置を確認した。
- 「海外渡航管理システム」に登録した(たびレジに連携しています)。
- 行動予定、緊急連絡方法、連絡先を関係者と共有した。
- 所定の安全対策研修を受講した。
- 海外旅行傷害保険を加入した。
- 空港到着時の出迎え者の名前・顔写真・出迎え方法を確認した。

ホテル

- 安全な場所のホテルを選んだ。
- 非常口、避難階段までの通路を実際に確認した。
- 周辺の危険で、立ち入ってはいけない場所などを確認した。
- 食事等で外出する際には、荷物に施錠する。
- 現金など貴重品は分散保管して、室内の見えるところに残置しない。
- 扉を開ける前や訪問者を、ドアスコープで確認している。

車両での移動

- 車両の日常点検と乗車前点検を行っている。
- 運転手に対して、安全運転の指示を行っている。
- 長距離移動では、無理のないスケジュールを組んでいる。
- ルート、休憩ポイント、時間などの計画を運転手と事前に打合せている。
- 車外から見える場所にカバンや貴重品を置いていない。
- 同乗中は居眠りをしない。

車両点検

- | | |
|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> タイヤの空気圧と摩耗状況 | <input type="checkbox"/> ハンドルのブレ |
| <input type="checkbox"/> 燃料及びエンジンオイル | <input type="checkbox"/> ブレーキの踏み具合 |
| <input type="checkbox"/> バッテリー液 | <input type="checkbox"/> リフレクター(三角停止板) |
| <input type="checkbox"/> ラジエーター | <input type="checkbox"/> ファーストエイドキット |
| <input type="checkbox"/> 工具類の搭載 | <input type="checkbox"/> タイヤの空気圧、溝点検 |
| <input type="checkbox"/> 燈火、方向指示器の点滅 | <input type="checkbox"/> 予備タイヤの確認 |

住居・オフィス

一般的な事項

- 住居周辺の環境は安全である。貧困地区や、酒場・カジノなど夜間にも人が集まるような場所が近くにない。
- 通勤路は安全である。
- 公共交通機関の乗降場所から住居までの道程は安全である。
- トイレとシャワーが自宅内に完備されている(配属先の敷地内に住居がある場合、集合住宅の場合は敷地内も可)。

敷地内・周辺

●配属先の敷地内に住居がある場合(例:学校・病院敷地内の住居)

- 配属先の敷地が塀や柵などで囲まれている。
- 塀の上には鉄条網が敷設されている。
- 昼間及び夜間、敷地は警備員により管理され、出入りする人々はチェックされている。
- 警備員がいない場合、ゲートの鍵が閉められるようになっている。

●集合住宅の場合(アパートメント・平屋等)

- 敷地が塀や柵などで囲まれている。
- 塀の上には鉄条網が敷設されている。
- 昼間及び夜間、敷地は警備員により管理され、出入りする人々はチェックされている。
- 警備員がいない場合、ゲートの鍵が閉められるようになっている。
- 隣人に安全管理面で問題のありそうな人物はいない。

●一戸建ての住宅の場合

- 住居が孤立していない(周囲に住居が隣接している)。
- 住居の敷地が塀や柵などで囲まれている。
- 塀の上には鉄条網が敷設されている。
- 昼間及び夜間、敷地は警備員により管理され、出入りする人々はチェックされている。
- 隣人に安全管理面で問題のありそうな人物はいない。

住居・オフィス

住居(補助錠やムーンロックなどを携行し、必要に応じて取り付けてください。下線部は必須です。)

- 玄関・裏口のドアの周囲にセキュリティライトが付いている。
- 周辺が見渡せる程度の明るさは確保できている。
- ドア枠、窓枠に腐食はない(腐食・劣化は高温多湿の地域に多く、補強・交換が必要)。
- 玄関ドアは金属製一枚扉である。または二重扉で一枚は鉄格子(グリルドア)、もう一枚は木製扉になっている。
- 鉄格子扉の場合、その内側にカンヌキ(フランス落とし/落とし込み錠)がついている。
- 鉄格子扉の外側から、ムーンロック(普通の南京錠より強度が高い)で施錠できる。
- 金属製一枚扉(又は二重扉の木製扉)に**丈夫な主錠と補助錠**がついている(**ワンドアツーロック**)。
- 主錠は本締箱錠または同等以上の強度がある(棒鍵錠は主錠に適しません)。
- チェーン錠を取り付けている。
- ドアスコープを取り付けている。
- 裏口ドアも玄関ドアと同様の防犯対策がなされている。
- 金属製一枚扉又は二重扉 扉内側カンヌキ
- 金属製一枚扉/二重扉の木製扉に**ツーロック**
- 本締箱錠ないしはそれ以上の強度の主錠 チェーン錠 ドアスコープ
- 窓はしっかりと閉まり、鍵がかかる。
- 窓には十分な強度の鉄格子(バーグラバー)が設置されている。**
- 鉄格子の**取付ネジ(ボルト)は熔接するなど容易に取り外せない構造である。**
- 寝室ドアには**主錠の他に補助錠**がついていて(**ツーロック**)、最後の砦として機能する。
- 生活する上で、懸念される事項はない。
- 窓ガラス破損 住居内施錠改善 天井施工の不備 飲料水確保
- その他()

緊急時の備え

- 所在や行動予定を組織や家族と共有した。
- 緊急時の連絡先、連絡方法を整備した。
- 緊急事態発生時の集合ポイント、脱出ルートを把握した。
- 緊急用備蓄品を準備した。
- 緊急時の脱出方法、非常口、避難階段を確認した。



いざという時に備え、緊急連絡先を記入しておきましょう

JICA在外拠点
緊急連絡先

●担当者名: _____

●国番号+電話番号: _____

海外安全に関する主な情報収集先

JICA

1. 安全対策ホームページ

<https://www.jica.go.jp/about/safety/index.html>

2. JICAの国別安全対策情報

<https://www.jica.go.jp/about/safety/rule.html>

3. 渡航前ブリーフィング

<https://www.jica.go.jp/about/safety/briefing.html>

4. コンサルタント等にかかる渡航手続き・安全対策について(依頼)

<https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/abroad.html>

5. 海外旅行保険について

<https://www.jica.go.jp/about/safety/insurance.html>

6. 安全対策研修・訓練

<https://www.jica.go.jp/about/safety/training.html>

外務省

1. 海外安全ホームページ

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>

3. 国・地域別海外安全情報

<https://www.anzen.mofa.go.jp/riskmap/>

他国機関

1. アメリカ:Travel.State.Gov

<https://travel.state.gov/content/travel/en/international-travel.html>

2. イギリス:Travel Advice

<https://www.gov.uk/foreign-travel-advice>

3. フランス:Conseils aux voyageurs

<https://www.diplomatie.gouv.fr/fr/conseils-aux-voyageurs/conseils-par-pays-destination/>

4. アメリカ:太平洋津波警報センター(災害情報)

<https://ntwc.ncep.noaa.gov/?page=visit#2>

